

グローバル

ICT

フォーラム

香港での「ICT for the future R&D Forum」開催報告

たけなか まさあき†1* さかのうえ こういち†2 ひさだ まさき†3

竹中 正明 / 阪上 晃一 / 久田 正樹

NTT研究企画部門†1 / NTTサービスインテグレーション基盤研究所†2
NTT Com Asia†3

2010年7月16日、香港において、NTTのR&D技術を紹介する「ICT for the future R&D Forum」を開催しました。日本国外でのNTT R&D技術のみでのフォーラム開催は初めてでしたが、香港メディアで多数取り上げられ、NTT R&Dの高い技術を印象付けました。ここでは本フォーラムの様相を紹介します。

概要

香港は急成長する巨大中国市場のエントランス、および東南アジアのハブとしての重要な拠点と位置付けられます。一方NTTにとって、顧客ビジネスのグローバル化に伴い、国際舞台でのNTTブランドの確立はますます重要となっているといえます。

こうした中、2010年7月16日にNTTコミュニケーションズの香港の現地法人NTT Com Asiaの主催でNTT R&D技術を紹介するフォーラムを開催しました。今回はNTTがR&D部門を持つ先進的なキャリアであることをアピール、香港での知名度の向上と、ビジネス拡大のチャンスを探ることをねらいにしました。またNTTドコモ

との連携による成果も展示、NTTグループ全体としての技術力をアピールすることにしました。

展示に向けては想定される来場者の関心や香港でのビジネス領域を考慮し、最先端でかつ際立った特長のあるプロダクト20品目を抽出、NTT Com AsiaとNTTとが協力して、優れたポイントを端的に見せる工夫を心掛けてパネルやガイドブックを作成しました。写真1は会場で配布したガイドブックです。

開催日の午前中は香港の政府・学術関係者やビジネス業界のトップ層をご案内しました。午後は一般客約300名が集い、展示の見学に加えセミナーを聴講しました。来場者はIT・通信業界はもちろん、金融・マーケティング関係者に至るまで多岐に及んでいます(図)。

来場者の多くは、「NTTはほかにはない技術力を持つキャリア」と評価、予想以上の反響でした。中には「誰も知らないことを発見、解明した瞬間の興奮が忘れられない」という研究者の思いが伝わってか、「情熱的な研究者の姿勢に新入社員のころの気持ちを思い出した」との感想や、「近い将来、NTTと連携したい」などの意見もありました。写真2は、招待客と宇



写真1 配布したガイドブック

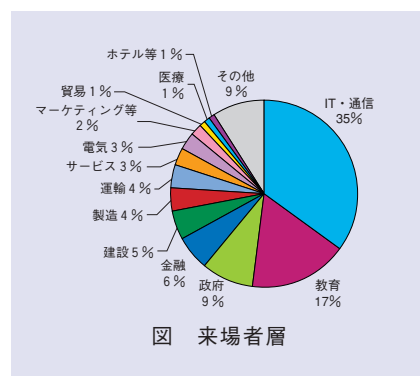


図 来場者層



写真2 招待客と宇治副社長

* 現、NTTコムテクノロジー

治則孝NTT代表取締役副社長との一場面、**写真3**は、一般客による展示見学の様子です。

開催模様は、映像および紙媒体を含めた多くのメディアで取り上げられ(**写真4**)、香港の一般の人々にとってもNTTを知るよいきっかけになりました。NTTの先進性が認められ、香港でのビジネスも加速しつつあります。

以下、主な展示・セミナーと会場での反応について報告します。

研究成果の展示

(1) ビジネスに活かせる技術

フォーラムには香港企業のトップクラスも来場することから、ビジネスに活かせる技術を展示しました。

入口を入ってすぐの部屋ではHDTVの4倍の解像度を持つ4K超高精細映像の伝送システム⁽¹⁾を使い、会場奥で踊るピエロのパフォーマンスのライブ映像を壁一面のスクリーンに映しました(**写真5**)。このデモは今回の目玉として、開催後に、「香港発：4K超高精細ライブ配信」「NTT：アジアを牽引する新技術を提供」等の見出しで、香港の新聞・雑誌等を飾りました。

次の部屋では、人の動きや身に付けた携帯電話内のデータに応じて広告が変化する、デジタルサイネージ(スポットアド)を展示しました(**写真6**)。人が近寄ると「You're welcome」と

呼びかけ、その人が興味のあるような広告を表示するものです。直感に訴えるためか、多くの人が足を止めていました。その模様は、香港の経済番組で次世代の技術が生活・社会をどのように変えるかを示す具体例として紹介されました。

また、クラウドデータセンターの運用を効率化する技術(CBoC: Common IT Bases over Cloud Computing)や、ICTシステムで利用されるOSS製品を統合管理する技術(Crane)等を紹介しました。会場では電力削減への貢献効果や、販売できるか等の積極

的な質疑応答が行われていました。

(2) エネルギー・環境技術

香港では、成長著しいアジア地域に近接していることもあり、環境関連投資や事業が高まる兆候があります。そこで燃料電池や太陽電池等のクリーンエネルギー、光の高速性と電気の機能性を融合した光パケットルータ、380Vの高電圧を直流で給電する技術等、「エネルギー・環境」をテーマにした成果を揃えて展示しました。環境ビジネスやデータセンター関係者から実用化時期についての質問を受け、興味の高さが伺えました。



写真3 一般客の展示見学



写真5 4K超高精細映像のライブ伝送



写真4 香港メディアによる取材の様子



写真6 人の動きで変化する広告

また、歩行の動作を電気エネルギーに変える靴「歩行発電⁽²⁾」の展示では、その分かりやすさと発想の面白さから常に人気があり、大勢の記者が説明員を取り囲み、靴とともに写真に収めるシーンが見られました(写真7)。

(3) 生活・社会の変化を予感させる技術

生活・社会に密着した身近な技術として、引っ張られるような感覚で、障がい者の歩行をナビゲートする手のひらサイズの装置「ぶるなび2⁽³⁾」(写真8)、インターネットを利用して集めた「こども語辞書⁽⁴⁾」(写真9)、高速列車内でもとぎれないブロードバンドサービスを実現する仕組み⁽⁵⁾等を紹介、すべてがメディアで取り上げられました。ぶるなび2の研究者には、開催前日、経済誌のインタビューが1時間近く行われ、質問は装置の仕組みからアイデアを生み出す環境にまで及びました。また、香港での早期教育への親の関心は高く、「こども語辞書の広東版があれば絶対利用する」との意見を多数いただきました。

一方、日本の医療の品質に対する関心も高く、テレビ電話を利用した保健指導システムも香港政府を中心に注目を集めました。

(4) 科学、ネットワーク発展のための技術

将来に向けての革新的技術として、ナノスケールでの半導体技術⁽⁶⁾やネットワーク上での量子コンピュータ

を利用したアルゴリズム、光通信分野において通信容量の世界記録を樹立した光伝送技術⁽⁷⁾等をパネルで紹介し、技術レベルの高さとともに、NTT R&Dのカバー範囲の広さをアピールしました。世界記録を達成した光伝送技術には、「素晴らしい」との感嘆の声が聞かれました。

また、ネットワーク技術として、インターネットの経路変動や異常トラフィックを検出する技術⁽⁸⁾が展示され、香港では4年前に台湾沖地震で海底ケーブル断の被害があったことから、その有効性がよく理解され、香港政府やキャリア等から「すぐに使いたい」との声をいただきました。

キーノートセミナー

午後のセミナーでは宇治副社長がNTTを代表し、「ブロードバンド&ユビキタス社会を目指して—NTTの『サービス創造グループ』に向けたチャレンジ」と題して、講演を行いました。その中で「R&DはNTTグループの成長と競争力の源と位置付け、本日見られる技術は、これまでにない通信環境を探求、経済を変革する新たなコミュニケーション環境を実現する」と述べました。

引き続き、香港の学術関係者の代表として、香港科技大学のYuen教授が、「新しい経済秩序の中での競争」と題し、講演を行い、「研究開発と政

策およびオープンイノベーションの戦略が協調することで、知識のハブとしての競争力が向上し、戦略的な共同開発を促進する」と述べました(写真10)。



写真7 「歩行発電」靴を撮影する記者



写真8 記者に人気の「ぶるなび2」



写真9 こども語辞書



写真10 Yuen教授の講演



写真11 セミナー会場

また、NTT研究企画部門の川添雄彦チーフプロデューサーが、「次世代コンテンツ配信サービス」と題して、IPTV、デジタルサイネージ、デジタルシネマ分野での新サービス創出の取り組み、およびグローバル市場で展開するための標準化活動等について説明しました。

さらに、NTT研究企画部門の横山健児プロデューサーは、「グリーンICTの活動とプロダクト」と題して、NTTのスマートグリッド構想等について説明しました。全体を通して、セミナー会場はほぼ埋め尽くされるほどの盛況ぶ

りでした(写真11)。

フォーラムを終えて

開催後の出展者へのアンケートでは、すべての展示で「反応はよかった」と回答、95%が、日本国外での出展に前向きでした。その理由は、「グローバル市場を意識した開発を促進できる」「対象を広げる必要があり、日本国外の事情把握は有益」「グローバル展開の一步となる」等の内容でした。

今回の結果を基に、今後、NTTグループとしてのグローバルな視点でのR&D技術の発信を考えていきたいと思えます。

■参考文献

- (1) 高橋・白井・室岡・藤井：“4 K超高精細映像の広域多地点配信技術,” 技術ジャーナル, Vol.19, No.1, pp.61-64, 2007.
- (2) 鳥海・金井・松本・正代：“歩行発電システムの原理確認,” 2007信学ソ大, 通信(2), 188, 2007.
- (3) 雨宮・安藤・何：“五感インタフェースによるノンパラルコミュニケーション,” NTT技術ジャーナル, Vol.19, No.6, pp.35-37, 2007.
- (4) 小林：“0-3さいはじめての「ことば」,” 小学館, 2008.
- (5) 内海・今泉・関川・吉田：“モバイルWiMAX環境下での通信品質向上技術の実証実験,” 電子情報通信学会総合大会, B-5-153, p.585, 2010.
- (6) 章・館野・後藤・寒川：“新しい低次元半導体ナノ構造の創出へ向けて,” NTT技術ジャーナル, Vol.22, No.6, pp.22-26, 2010.
- (7) A. Sano, H. Masuda, T. Kobayashi, M. Fujiwara, K. Horikoshi, E. Yoshida, Y. Miyamoto, M. Matsui, M. Mizoguchi, H. Yamazaki, Y. Sakamaki, and H. Ishii：“69.1-Tb/s (432 x 171-Gb/s) C-and Extended L-Band Transmission over 240 km Using PDM-16-QAM Modulation and Digital Coherent Detection,” OFC/NFOEC 2010, PDPB7, March 2010.

- (8) A. Kobayashi, Y. Hirokawa, and H. Kurakami：“‘SASUKE’ Traffic Monitoring Tool Traffic Shift Monitoring Based on Correlation between BGP Messages and Flow Data,” flocon 2010, Jan. 2010.



(左から) 竹中 正明/ 阪上 晃一/
久田 正樹

香港では、日本の技術やトレンドに対する関心が非常に高く、今回のフォーラムでも幅広い層から興味を持っていただくことができました。本フォーラムで、R&Dの先進的な技術をアピールしたことは、香港および中国でのビジネス拡大の一助になると考えています。

◆問い合わせ先

NTTサービスインテグレーション基盤研究所
ビジネスプロモーションSEプロジェクト
TEL 0422-59-3862
FAX 0422-60-7855
E-mail sakanoue.koichi@lab.ntt.co.jp